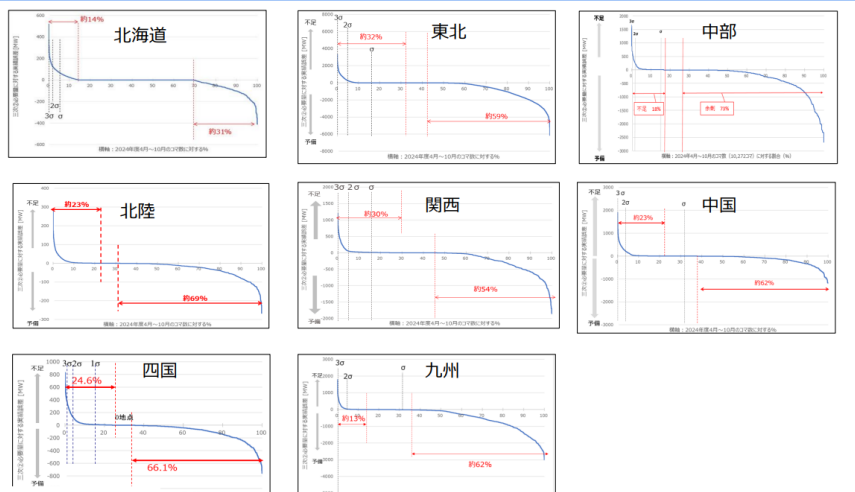
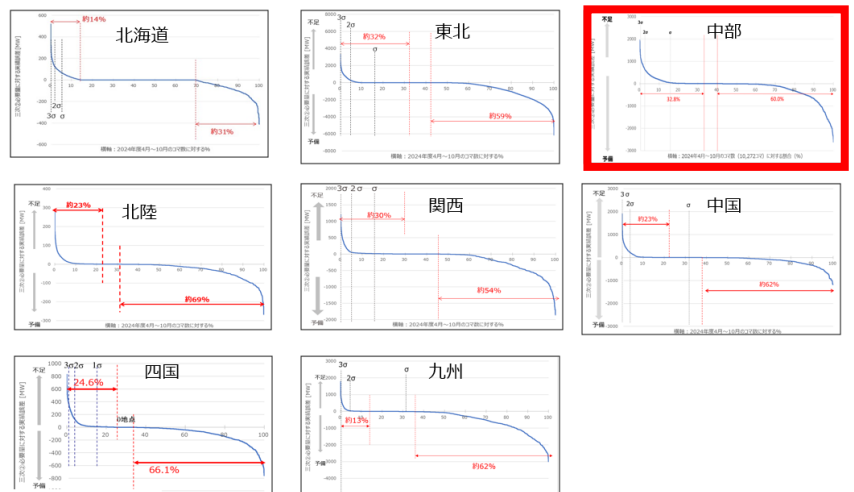


第54回需給調整市場検討小委員会
第70回調整力の細分化及び広域調達の技術的検討に関する作業会
資料3 修正箇所 新旧対照表

(修正箇所部分を抜粋)

(2025年4月16日修正分)

	修正前	修正後																																																																																							
P.24	(2) 単独エリア必要量テーブルの妥当性検証について24 ■ 次に、事前評価された必要量テーブルの妥当性検証として、単独エリアテーブルによる必要量が、再エネ予測誤差の実績に対し十分な量であったかを確認した。なお、昨年度と同様に各エリアの30分コマごとの「再エネ予測誤差－三次②必要量」を算出し、必要量より再エネ予測誤差が大きいものを「不足」、必要量より再エネ予測誤差が小さいものを「充足」と定義した。 ■ 結果、不足コマが全国平均で21%となり、充足コマと合わせて昨年度実績（不足23%）と大きな変化はなかったことから、今年度のテーブル作成方法（採録期間2年、特異値補正1%）も妥当と評価できるのではないかと。 必要量 誤差実績 【誤差実績－必要量】 必要量が不足 不足が大きい順に並び替え 必要量が充足 東京エリアの例 不足21.0% 充足79.0% 不足が大きい順に並び替え 【2024年4月から10月における各エリアの不足・充足コマ数割合】 [%] <table><tr><td></td><td>北海道</td><td>東北</td><td>東京</td><td>中部</td><td>北陸</td><td>関西</td><td>中国</td><td>四国</td><td>九州</td><td>平均</td></tr><tr><td>不足</td><td>14</td><td>32</td><td>10</td><td>18</td><td>23</td><td>30</td><td>23</td><td>25</td><td>13</td><td>21</td></tr><tr><td>充足</td><td>31</td><td>59</td><td>52</td><td>73</td><td>69</td><td>54</td><td>62</td><td>66</td><td>62</td><td>59</td></tr><tr><td>その他※</td><td>55</td><td>9</td><td>38</td><td>9</td><td>8</td><td>16</td><td>15</td><td>9</td><td>25</td><td>20</td></tr></table> ※【再エネ予測誤差-必要量】=0となるコマ (必要量が0で上振れにより再エネ予測誤差も0となるコマを含む) 資料3 別紙「三次調整力②に関する事後検証について（一般送配電事業者提出資料）」をもとに作成 (2) 単独エリア必要量テーブルの妥当性検証について24 ■ 次に、事前評価された必要量テーブルの妥当性検証として、単独エリアテーブルによる必要量が、再エネ予測誤差の実績に対し十分な量であったかを確認した。なお、昨年度と同様に各エリアの30分コマごとの「再エネ予測誤差－三次②必要量」を算出し、必要量より再エネ予測誤差が大きいものを「不足」、必要量より再エネ予測誤差が小さいものを「充足」と定義した。 ■ 結果、不足コマが全国平均で23%となり、充足コマと合わせて昨年度実績（不足23%）と同等であったことから、今年度のテーブル作成方法（採録期間2年、特異値補正1%）も妥当と評価できるのではないかと。 必要量 誤差実績 【誤差実績－必要量】 必要量が不足 不足が大きい順に並び替え 必要量が充足 東京エリアの例 不足23.0% 充足77.0% 不足が大きい順に並び替え 【2024年4月から10月における各エリアの不足・充足コマ数割合】 [%] <table><tr><td></td><td>北海道</td><td>東北</td><td>東京</td><td>中部</td><td>北陸</td><td>関西</td><td>中国</td><td>四国</td><td>九州</td><td>平均</td></tr><tr><td>不足</td><td>14</td><td>32</td><td>10</td><td>33</td><td>23</td><td>30</td><td>23</td><td>25</td><td>13</td><td>23</td></tr><tr><td>充足</td><td>31</td><td>59</td><td>52</td><td>60</td><td>69</td><td>54</td><td>62</td><td>66</td><td>62</td><td>57</td></tr><tr><td>その他※</td><td>55</td><td>9</td><td>38</td><td>7</td><td>8</td><td>16</td><td>15</td><td>9</td><td>25</td><td>20</td></tr></table> ※【再エネ予測誤差-必要量】=0となるコマ (必要量が0で上振れにより再エネ予測誤差も0となるコマを含む) 資料3 別紙「三次調整力②に関する事後検証について（一般送配電事業者提出資料）」をもとに作成 【理由】中部エリアの不足・充足コマ割合に誤りがあったので修正しております。		北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	平均	不足	14	32	10	18	23	30	23	25	13	21	充足	31	59	52	73	69	54	62	66	62	59	その他※	55	9	38	9	8	16	15	9	25	20		北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	平均	不足	14	32	10	33	23	30	23	25	13	23	充足	31	59	52	60	69	54	62	66	62	57	その他※	55	9	38	7	8	16	15	9	25	20
	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	平均																																																																															
不足	14	32	10	18	23	30	23	25	13	21																																																																															
充足	31	59	52	73	69	54	62	66	62	59																																																																															
その他※	55	9	38	9	8	16	15	9	25	20																																																																															
	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	平均																																																																															
不足	14	32	10	33	23	30	23	25	13	23																																																																															
充足	31	59	52	60	69	54	62	66	62	57																																																																															
その他※	55	9	38	7	8	16	15	9	25	20																																																																															

	修正前	修正後
P.25	(参考) 各エリアにおける単独エリア必要量と再エネ予測誤差の実績比較 25  資料 3 別紙「三次調整力②に関する事後検証について（一般送配電事業者提出資料）」をもとに作成	(参考) 各エリアにおける単独エリア必要量と再エネ予測誤差の実績比較 25  資料 3 別紙「三次調整力②に関する事後検証について（一般送配電事業者提出資料）」をもとに作成 【理由】 中部エリアのグラフに誤りがあったので修正しております。

P.29

修正前

(参考) 各エリア特異値補正毎の不足コマ数割合および不足最大量

29

【特異値補正有無による不足コマ数割合※1】

[%]

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	平均
補正無	15	39	14	20	29	34	28	29	18	25
3%補正	13 (▲2)	33 (▲6)	11 (▲3)	18 (▲2)	25 (▲4)	31 (▲3)	24 (▲4)	25 (▲4)	13 (▲5)	21 (▲4)
1%補正	12 (▲3)	32 (▲7)	10 (▲4)	18 (▲2)	23 (▲6)	30 (▲4)	23 (▲5)	25 (▲4)	13 (▲5)	21 (▲4)
全補正	12 (▲5)	30 (▲9)	9 (▲5)	16 (▲4)	21 (▲8)	30 (▲4)	22 (▲6)	24 (▲5)	11 (▲7)	19 (▲6)

※1 () は補正無に対する減少量

【特異値補正有無による不足最大量】※2

[MW]

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	削減率 平均
補正無	582	2,364	4,243	2,128	300	1,481	1,903	936	2,227	
3%補正	509 (▲12)	2,332 (▲1)	4,243 (0)	2,128 (0)	278 (▲7)	1,201 (▲19)	1,903 (0)	829 (▲11)	1,805 (▲19)	▲7
1%補正	509 (▲12)	2,332 (▲1)	3,301 (▲22)	1,664 (▲22)	278 (▲7)	1,201 (▲19)	1,903 (0)	829 (▲11)	1,779 (▲20)	▲13
全補正	509 (▲12)	2,101 (▲11)	3,301 (▲22)	1,664 (▲22)	278 (▲7)	1,201 (▲19)	1,903 (0)	829 (▲11)	1,779 (▲20)	▲14

※2 () は補正無に対する削減割合[%]

電力広域の運営推進機関
Electric Power Industry Development Promotion Organization
EPO

資料3 別紙「三次調整力に関する事後検証について（一般送配電事業者提出資料）」をもとに作成

修正後

(参考) 各エリア特異値補正毎の不足コマ数割合および不足最大量

29

【特異値補正有無による不足コマ数割合※1】

[%]

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	平均
補正無	15	39	14	37	29	34	28	29	18	27
3%補正	13 (▲2)	33 (▲6)	11 (▲3)	34 (▲3)	25 (▲4)	31 (▲3)	24 (▲4)	25 (▲4)	13 (▲5)	23 (▲4)
1%補正	12 (▲3)	32 (▲7)	10 (▲4)	33 (▲4)	23 (▲6)	30 (▲4)	23 (▲5)	25 (▲4)	13 (▲5)	22 (▲5)
全補正	12 (▲5)	30 (▲9)	9 (▲5)	31 (▲6)	21 (▲8)	30 (▲4)	22 (▲6)	24 (▲5)	11 (▲7)	21 (▲6)

※1 () は補正無に対する減少量

【特異値補正有無による不足最大量】※2

[MW]

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	削減率 平均
補正無	582	2,364	4,243	2,420	300	1,481	1,903	936	2,227	
3%補正	509 (▲12)	2,332 (▲1)	4,243 (0)	2,420 (0)	278 (▲7)	1,201 (▲19)	1,903 (0)	829 (▲11)	1,805 (▲19)	▲7
1%補正	509 (▲12)	2,332 (▲1)	3,301 (▲22)	1,956 (▲19)	278 (▲7)	1,201 (▲19)	1,903 (0)	829 (▲11)	1,779 (▲20)	▲13
全補正	509 (▲12)	2,101 (▲11)	3,301 (▲22)	1,956 (▲19)	278 (▲7)	1,201 (▲19)	1,903 (0)	829 (▲11)	1,779 (▲20)	▲14

※2 () は補正無に対する削減割合[%]

電力広域の運営推進機関
Electric Power Industry Development Promotion Organization
EPO

資料3 別紙「三次調整力に関する事後検証について（一般送配電事業者提出資料）」をもとに作成

【理由】 中部エリアの特異値補正毎の不足コマ数割合および不足最大量に誤りがあったので修正しております。

P.34

修正前

(4) 三次②の使用率について

34

■ 三次②必要量に対する経済性評価として、実際の三次②必要量のうち、再エネ予測の下振れ誤差の実績値に対応した使用率を確認した結果、実際の三次②必要量のうち、約23%が再エネ予測誤差に対応していた。

■ 昨年度の使用率は全国合計で28%であったが、今年度は一部エリアでは前日からGCまでの予測上振れコマが下振れコマと比較して多かった（倍増した）ことから、使用率の分子が小さくなり使用率が低下したと想定される。

■ 2025年は取引単位時間の変更（30分化）によって使用率向上が想定されるが、その他の使用率向上に向けた一般送配電事業者の取組についても安定供給上の問題がないことを維持した上で、引き続き確認することとしたい。

A 必要量

※2

B 再エネ誤差実績

※1

※1

(2024年4～10月の実績)

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	合計
A 必要量[億kWh]	1.9	8.3	26.7	15.8	1.6	11.8	7.2	6.4	27.5	107.2
B 誤差実績[億kWh]	0.5	2.5	6.4	2.2	0.4	3.1	1.9	2.4	5.5	24.8
C(=B/A) 使用率[%]	26.1	30.3	23.8	13.7	24.3	26.4	26.3	37.2	19.9	23.1

必要量がどの程度FITの下振れ誤差に対応したかを確認するため、誤差実績について以下のとおり集計

※1 再エネが上振れした場合の誤差は「0」とする ※2 必要量を超過する下振れ誤差は必要量を上限とする

(4) 三次②の使用率について

34

■ 三次②必要量に対する経済性評価として、実際の三次②必要量のうち、再エネ予測の下振れ誤差の実績値に対応した使用率を確認した結果、実際の三次②必要量のうち、26.0%が再エネ予測誤差に対応しており、これは2023年度事後検証における使用率（28.2%）と比較して大きな変化はない結果であった。

■ 2025年は取引単位時間の変更（30分化）によって使用率向上が想定されるが、その他の使用率向上に向けた一般送配電事業者の取組についても安定供給上の問題がないことを維持した上で、引き続き確認することとしたい。

A 必要量

※2

B 再エネ誤差実績

※1

※1

(2024年4～10月の実績)

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	合計
A 必要量[億kWh]	1.9	8.3	26.7	15.8	1.6	11.8	7.2	6.4	27.5	107.2
B 誤差実績[億kWh]	0.5	2.5	6.4	5.3	0.4	3.1	1.9	2.4	5.5	27.9
C(=B/A) 使用率[%]	26.1	30.3	23.8	33.5	24.3	26.4	26.3	37.2	19.9	26.0

必要量がどの程度FITの下振れ誤差に対応したかを確認するため、誤差実績について以下のとおり集計

※1 再エネが上振れした場合の誤差は「0」とする ※2 必要量を超過する下振れ誤差は必要量を上限とする

【理由】中部エリアの誤差実績および使用率に誤りがあったので修正しております。